

島根県内初の大型木造校舎

オール地域材を分離発注で供給

島根県木材協会松江支部の会員約30社で構成する松江市木材協会(野口英司会長)は、島根県松江市玉湯町の幼稚園から小学校までを兼ねた木造(一部RC及びS造)の市立一貫校「松江市立義務教育学校玉湯学園・たまゆ幼稚園」(延べ床面積約8769平方メートル)の木造を分離発注により供給した。市や関係者と協会が協議を重ね、木材の温かみある、地域のシンボルとなるような学校づくりを目指す」という思いを込めた一貫校は足掛け4年を掛け、4月に開校。現在約670人の児童・生徒が木材の温かみを感じ、楽しく通学している。

一般社団法人 松江市木材協会



円形部分は島根県産材集成材。丸柱は、学校統合前の玉湯町大谷小学校近くの山から伐り出した自然木をモニュメント柱とした

前身の玉湯小学校(原木387・8立方メートル)は、竣工から50年が経過し、劣化が進んで、そのほかはすべて島根県産材というオール地域材により、児童数の増減に合わせた約2100立方メートル(製品)で建設された。幼稚園、小学校、中学校を集約させた一貫校として木造での整備が決まった。そのためには2年以上が必要と分かった。そのため、松江市産材

材を発注者(松江市)が人工乾燥を行った。材が調達し、施工者に支給する分離発注方式を採用した。

分離発注のメリット
大量の良質な木材を供給するには準備期間が必要のため、同方式が採用された。これにより「建物の寿命を大きく左右する原木の伐り時を選び、秋伐りの原木を使用する」(同協会)ことになった。また、従来の下請けや孫請けで得られなかった木材の適正利潤を、納入した木材業者だけに、山元も得ることができる。木材業界の活性化にもつながった。

今回、過去に経験のない大量の地域材を調達・製造・加工したことにより、協会会員各社に、今後の公共物件受注に向けて、製造に自信を付けて、設備投資を視野に入れる製材所も出た。また、発注者と直接契約が可能になったことで、工期全体の把握ができるようになった。

同協会だけでなく、県や地元森林組合などは、迅速に地域で木材供給のネットワークを構築し、材料供給の準備を進めてきた。2017年から松江市森林組合が市内の原木の供給を開始。18年から同協会の会員企業が順次製材し、1年間天然乾燥した後に、会員企業ク

法、含水率などの材料検査は下準備を含めて協会会員が1本1本測定。構造材は強度測定(ヤング係数)と含水率、下地材や内装材は含水率の計測に40日以上費やした。検査日は雨の日が多く、木材に水分が戻り非常に苦労したという。事前に全量各製材工場自主検査データを作成することで対応した。松江市と同協会は、事前に協議を重ね「木製品の規格・基準及び製造・品質管理マニュアル」を独自に作成し準備を進めた。最終的に、引き渡しの検査回数は延べ60回以上に及んだ。

同協会は「管理マニュアルを作成すること、複数の製材所からの納品でも安定した品質を担保できた。さらに製造管理を行うことで、大量の地域材を納品できた」と振り返った。

協会が地域木造の受け皿に
玉湯学園完成後、同協会の会員からは「地域材を大型木造建築物に活用する際は、社会の仕組みを再構築しなければならぬ」という声も聞かれた。玉湯学園の教育機関で、木造建築科(学部)が減少したこともあり、若い学生が木造に触れる機会(講義)が減ったことが悔やまれる。木造に精通した設計士の育成と木造建築科の新設することは、木造の普及やこれからの脱炭素社会の実現に極めて重要だ」という率直な意見が聞かれた。

同協会は「管理マニュアルを作成すること、複数の製材所からの納品でも安定した品質を担保できた。さらに製造管理を行うことで、大量の地域材を納品できた」と振り返った。

同協会は、玉湯学園の材料供給を機に、松江市内の公共建築物の材料を共同で受注する受け皿としての役割を担い、今後さらなる活動の拡大を狙う。玉湯学園以降も既に受注・納材の実績を積み重ねており、地域材の供給を可能とする体制を構築。より高品質な木材供給に向け、毎月協議を重ねている。

6月には真野勝久前会長(現・顧問)から野口英司氏(野口木材社長)に会長職のバトンをつないだ。真野顧問は「松

江市木材協会は、地域の木造化や市・県産材の推進を目的に設立した。玉湯学園への大量の良質な地域材を無事に供給できたこと、会長の交代に至った」と振り返る。今後も協会内の会員企業のベテランが、今までの体験や工夫、苦労した実績などを若手メンバーに積極的に伝承し、新旧の融合を図る。野口会長は「若い感性を存分に発揮してほしい」と語る。

同協会は今回の事例を基に、全国の地域材活用の供給に一石を投じ、業界内への木造化、木質化への波及を狙う。「同業者がチームとなり、それぞれの得意分野で一丸となれば大型物件の木材供給も可能だと考える」と(同協会)と話し、事例を松江から全国へ発信



玉湯学園・たまゆ幼稚園の外観全景

法、含水率などの材料検査は下準備を含めて協会会員が1本1本測定。構造材は強度測定(ヤング係数)と含水率、下地材や内装材は含水率の計測に40日以上費やした。検査日は雨の日が多く、木材に水分が戻り非常に苦労したという。事前に全量各製材工場自主検査データを作成することで対応した。松江市と同協会は、事前に協議を重ね「木製品の規格・基準及び製造・品質管理マニュアル」を独自に作成し準備を進めた。最終的に、引き渡しの検査回数は延べ60回以上に及んだ。

同協会は「管理マニュアルを作成すること、複数の製材所からの納品でも安定した品質を担保できた。さらに製造管理を行うことで、大量の地域材を納品できた」と振り返った。

同協会は、玉湯学園の材料供給を機に、松江市内の公共建築物の材料を共同で受注する受け皿としての役割を担い、今後さらなる活動の拡大を狙う。玉湯学園以降も既に受注・納材の実績を積み重ねており、地域材の供給を可能とする体制を構築。より高品質な木材供給に向け、毎月協議を重ねている。

6月には真野勝久前会長(現・顧問)から野口英司氏(野口木材社長)に会長職のバトンをつないだ。真野顧問は「松

同協会は「管理マニュアルを作成すること、複数の製材所からの納品でも安定した品質を担保できた。さらに製造管理を行うことで、大量の地域材を納品できた」と振り返った。

同協会は、玉湯学園の材料供給を機に、松江市内の公共建築物の材料を共同で受注する受け皿としての役割を担い、今後さらなる活動の拡大を狙う。玉湯学園以降も既に受注・納材の実績を積み重ねており、地域材の供給を可能とする体制を構築。より高品質な木材供給に向け、毎月協議を重ねている。

6月には真野勝久前会長(現・顧問)から野口英司氏(野口木材社長)に会長職のバトンをつないだ。真野顧問は「松

同協会は「管理マニュアルを作成すること、複数の製材所からの納品でも安定した品質を担保できた。さらに製造管理を行うことで、大量の地域材を納品できた」と振り返った。

同協会は、玉湯学園の材料供給を機に、松江市内の公共建築物の材料を共同で受注する受け皿としての役割を担い、今後さらなる活動の拡大を狙う。玉湯学園以降も既に受注・納材の実績を積み重ねており、地域材の供給を可能とする体制を構築。より高品質な木材供給に向け、毎月協議を重ねている。

6月には真野勝久前会長(現・顧問)から野口英司氏(野口木材社長)に会長職のバトンをつないだ。真野顧問は「松

同協会は「管理マニュアルを作成すること、複数の製材所からの納品でも安定した品質を担保できた。さらに製造管理を行うことで、大量の地域材を納品できた」と振り返った。

同協会は、玉湯学園の材料供給を機に、松江市内の公共建築物の材料を共同で受注する受け皿としての役割を担い、今後さらなる活動の拡大を狙う。玉湯学園以降も既に受注・納材の実績を積み重ねており、地域材の供給を可能とする体制を構築。より高品質な木材供給に向け、毎月協議を重ねている。

6月には真野勝久前会長(現・顧問)から野口英司氏(野口木材社長)に会長職のバトンをつないだ。真野顧問は「松

松江の森と街とを結びます 一般社団法人松江市木材協会

松江市立義務教育学校 玉湯学園

私たちは、松江市内の木造建築の材料供給を担っており、地域の木造化・木質化に貢献致します

会長 野口英司
〒690-0025 島根県松江市八幡町 888
メールアドレス: m-mokkyo@sage.ocn.ne.jp

※3月の玉湯学園完成見学会時に写真撮影